

「国際文化都市としてのパリ」

「絵画と外国人芸術家 — 19 世紀末から 20 世紀初頭のエコール・ド・パリの芸術と画家たち」

※パリのイメージ

歴史、文化、文学、ファッション（服飾）、食文化、芸術
「芸術の都」「文化の香り」「都市景観」 → 近代以降の価値観

-
- ※都市の目的と成立： 軍事、経済 → 文化活動が加わる。
 - ※都市への移り住み： 経済活動→文化活動
 - ※パリの変化： お金を儲ける（稼ぐ）街から、お金を使う（楽しむ）街への変化。
 - ※近代パリの誕生： ルノワール、モネ、ピカソ、デュフィ
 - ※街並みを描く： 美化された街区、パースペクティブ、日常性、何気ない情景
→パリ大改造以降の絵画のみに出現

1. 都市への移住目的（動機）の多様化

- ①経済的目的： 金融(商業)都市としての魅力→職を求める、金を稼ぐ（例、フィレンツェ）
- ②文化的目的： 19 世紀末から 20 世紀初頭、都市を楽しむ（例、パリ）
都市文化、街の香り（雰囲気） → 文化力

2. パリの変化

- ①産業革命
- ②交通網（鉄道）の発達
- ③治安／衛生環境の向上
- ④人口構成比の変化

都市機能の変化／付加価値 → 「働く街」から「楽しむ街へ」
パリ人口の増加 1800 年→55 万人、1850 年→110 万人、1900 年→230 万人
職場のみ → 店、遊興場の増加

3. エコール・ド・パリ（パリ派）の成立

- ①エコール・ド・パリ： 1900 年代初頭から 1920 年代、各国から画家たちがパリに集まった。
モンマルトルやモンパルナスでボヘミアン的な生活。
一貫性、共通目的、共通画風などがない。
グループではなく、同時期にパリに滞在した画家たちの総称。
- ②第一次世界大戦の前後、パリは国際的で豊かな創造の場となる。
- ③各国から自由な雰囲気を求めてパリに集まった放浪の画家たち → パリ派（エコール）
- ④主な画家たち
ダリ、ピカソ（スペイン）
モディリアーニ（イタリア）
シャガール、スーティン（ロシア）、
パスキン（ブルガリア）、
ヴァン・ドンゲン（オランダ）、キスリング（ポーランド）
フジタ（藤田嗣治）、
ローランサン、ユトリロ（パリ）ら

参考資料

エコール・ド・パリの画家

- ・アメデオ・モディリアーニ (1884~1920)
画家・彫刻家。黒人彫刻を思わせるデフォルムと流麗な線。哀愁をおびた独自の人間像。モンマルトル、モンパルナスで貧困のうちにボヘミア的な生活を送った。
- ・マルク・シャガール (1887~1985)
伝統と前衛、現実と幻想を融合させた強烈な個性。ロシア、フランス、アメリカで生活。生まれ故郷の思い出や風景。山羊や鳥、人間が自由に飛び回る、独自の詩情あふれる世界。
- ・レオナルド・フジタ (藤田嗣治) (1886~1968)
戦前よりパリで活動。日本画の技法を取り入れた乳白色の作風はパリ画壇で絶賛された。
- ・モーリス・ユトリロ (1883~1955)
生涯モンマルトルに住む、孤独な制作。詩情のおもむくまま、パリの不思議な魅力を描く。

20 世紀初頭のヨーロッパ芸術

- ・**フォーヴィスム**：現代絵画の最初の革命、1905 年のサロン・ドートンヌ
マティス、ルオー、マルケ、ヴラマンクら (セザンヌ、ゴーガン、ゴッホを師と仰いだ)。
強烈な原色と荒々しい筆触 → 「フォーヴ (野獣)」と酷評された。
フォーヴ運動は 1905 年から 1906 年をピークに急速に衰える→画風の多様化。
20 世紀：10 人の芸術家がいれば 10 のイズムが成立する時代、個性尊重、主義主張。
- ・**ドイツ表現主義**：フォーヴとほぼ同時期、ドイツで活躍した画家の一群
カンディンスキー、ノルデら、抽象絵画の先駆的存在。
世紀末のムンクやホドラーの影響のもとに、激しい内面を表現。
表現主義はまず「芸術家集団ブリュッケ」の結成から始まる。
「ブリュッケ」：「橋」の意味、過去と未来をつなぐ者という意味で選ばれた名称。
「長い間君臨している古い勢力に対して、生活と運動の自由」を若手が目指した。
「ブラウエ・ライター (青騎士)」：カンディンスキー、クレーらを中心とする表現主義。
- ・**素朴派 (ナイーフ)**：市民としての自由な発想と手法での表現を重視
アンリ・ルソー、セラフィーヌ、ボージャンら、日曜画家的な立場で制作。
- ・**未来派**：1910 年、詩人マリネッティの未来派宣言
絵画において機械文明の新しい美を追究する運動、斬新な感性。
機械や運動するもののスピード感を絵画化。
- ・**キュビズム**：20 世紀初頭フォーヴィスムと前後してフランスに起こった絵画革命運動
ピカソとブラックが指導者的存在。
アフリカの黒人彫刻の大胆なデフォルムと、セザンヌの理知的な画面構成に学ぶ。
対象をあらゆる角度からながめ、ひとつの画面の中に構成。
奔放で情熱的なピカソ + 冷静で理知的なブラック = キュビズム。